

エースとスーパーサブの競演 大切なのはバッグ



技術を最大限に出すには自分にあった道具が必要です

須磨久善 HISAYOSHI SUMA

1950年生まれ、兵庫県出身。
心臓外科医として、世界的な名声を誇る。
「須磨ハートクリニック」の院長を務める。
程ヶ谷CCのメンバー、HC18



- 1W プロギア GN502(ロフト10.5度)
- 3W テーラーメイド RBZ
- 5W プロギア GN502ヒット
- 3UT ダンロップ スリクソン ハイブリッド
- 4UT フォーティーン HI-660
- 5I~PW フォーティーン TC-660(シャフト/NS950 R)
- AW クリーブランド CG15(ロフト52度)
- SW クリーブランド CG15(ロフト56度)
- PT ベティナルディ SB-5i

世界に先鞭をつける胃の動脈を使ったバイパス手術、日本で初めてのバチスタ手術。須磨は心臓外科医として、誰もやらなかった難手術に挑んで、世界中の心臓病患者を救ってきた。その「神の手」にはいつも、自分の手のひらや指の力にフィットする、オーダーメイドの手術道具が握られていた。「例えばハサミにしても、出来合いのものだとバネが弱すぎたりして、どうしてもしっくりきません。本当に微妙なんですけどね。でも道具がピタッと合ったときって、絶対に手術も上手いくと思える。「弘法は筆を選ばず」っていいですけど、僕は心臓外科医をやっている「筆を選ばなきゃ弘法にはな

れない」と思います」ドクターとしてそこまで道具にこだわる須磨にとっては、ゴルフのギアも全く同じことだった。「クラブはもう、べらぼうに大事ですね。高価だから良いというわけではなく、自分に合う使いやすいうモノってあるはず。出会ったときにわかりますね、「コレだったんだ」って。ゴルフの腕は手術の域には達していませんが(笑)」自分に合うクラブを追い求めるゴルフアー・須磨にとって、クラブセッティングは14本のチーム。それは、オベに臨むときにスタッフみんなが力を合わせる「チーム力」に通じると言う。「どちらも、良いつながりがカ



このスプーンとバターは、以前使っていたクラブとは「見事に違う。すごい楽」と言い切る、頼りになる武器

ギですね。同じ仕事をやる人が2人いてもしょうがないわけで、それぞれの個性がダブらないけどもリンクしていることが大事です。「こういうときはお前だね」という役割分担があり、その個性が集まって少数精鋭のチームができる。手術でもクラブセッティングでもそうですが、人数や本数の制約がある中でどれだけパワーを出せるか。それがチーム力です」

その14本を通して、つながっていることは、バランスと言う。それはメカニカルな要素だけでなく、感覚的な部分が大

きい。「自分の姿勢や筋力、スウィングにクラブが同調してくれる感じがすると、安心して振れるでしょ。なんというか……、自分の心とのバランスみたいなもの。気持ちと上手くマッチアップしてくれるような、絶妙なバランスで付き合ってくれる良き仲間たちです」14本の相棒とともに、コースという難関にチャレンジする。

